

DXの推進状況について

株式会社大崎コンピュータエンジニアリング

代表取締役社長 武田健三

当社内のDXの推進状況について、以下の通りお知らせします。

「戦略実行体制」

2026年は自治体業務の標準化、DXシフトへ対応するためにDXビジネス推進の具体化などを、各タスクフォースに取り組んでおります。

- 《タスクフォース1》営業競争戦略のストーリー化
- 《タスクフォース2》次世代ソリューションビジネスの検討
- 《タスクフォース3》OCEコーポレートブランドの検討と推進活動
- 《タスクフォース4》新商品開発(SIパートナービジネス)
- 《タスクフォース5》DX商談の獲得に向けた人材育成
- 《タスクフォース6》自治体標準化
- 《タスクフォース7》生成AI

「IT環境整備」

- グループウェア(情報連携基盤)

グループウェアを通じて、経営メッセージ、経営戦略や経営状況、人材育成状況などの伝達、改善意見や問い合わせなどの各種コミュニティーの形成を行っております。

- RPA

営業事務(原価管理)などにRPAを適用して、定型事務の削減・生産性の向上に努めます。

- クラウド型eラーニングシステム

クラウド型eラーニングシステムを導入して、自己学習の推奨を促進しております。

「人材の育成・確保」

従来の職種別スキルを横断する教育訓練部的な専門部署を設立(OCEアカデミー)して、事業戦略に合わせた技術者の育成と個人のキャリアパスに応じた育成を行っております。

プロジェクトマネージャー及びDM(DXマネージャー)の育成・確保の状況

- ・2025年度実績:5人確保
- ・2026年度計画:5人確保(予定)